

● 診療科名が一部変更になりました ●

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| ■ 総合診療科 | ■ 循環器内科 | ■ 消化器内科 | ■ 内視鏡内科 |
| ■ 呼吸器内科・リウマチ科 | ■ 糖尿病・内分泌内科 | ■ 腎臓内科 | ■ 神経内科 |
| ■ 臨床腫瘍科 | ■ 精神神経科 | ■ 小児科 | ■ 小児腎臓科 |
| ■ 新生児科 | ■ 小児外科 | ■ 小児感覚器科 | ■ 産科 |
| ■ 婦人科 | ■ 生殖医療科 | ■ 消化器・乳腺・移植外科 | ■ 心臓血管・呼吸器外科 |
| ■ 整形外科 | ■ 脳神経外科 | ■ 皮膚科 | ■ 泌尿器科 |
| ■ 眼科 | ■ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | ■ リハビリテーション科 | ■ 緩和ケア科 |
| ■ 放射線診断科 | ■ 放射線治療科 | ■ 歯科・口腔外科 | ■ 麻酔科 |
| ■ 救急科 | | | |

● 交通のご案内 ●

広島高速2・3号線が開通し、東区、安佐北区から当院へのアクセスが便利になりました。宇品ICから当院まで約3分でお越しいただけます。

※東区、安佐北区方面から高速2号線を利用されて当院にお越しになる場合は、仁保ICから下車できませんので、ご注意ください。

交通機関

- 市内電車
広島駅⇔広島港線 (5番・1番)
西広島駅⇔広島港線 (6番)
県病院前電停下車 徒歩3分
- 広電バス
八丁堀⇔仁保中町線 (12号)
県病院前バス停下車 徒歩1分
- 広島バス
広島駅⇔翠町循環線 (31号)
県病院前バス停下車 徒歩1分

車でお越しの場合は

- 広島駅から
所要時間：約20分
- バスセンターから
所要時間：約20分
- 広島高速3号線 宇品ICから
所要時間：約3分



紹介状持参のお願い

初診で来院される際には、「紹介状」をご持参いただきますようお願いいたします。

・当院では、お近くのかかりつけ医の先生と連携し、専門的な検査や入院治療を行い、皆様のお役に立ちたいと考えております。

「紹介状」は、かかりつけ医と当院とを連携するものです。事前にかかりつけ医からFAXによって診療予約をすることができます。

・紹介患者専用の受付を設置しております。お問い合わせ：地域連携科(病診連携担当)TEL(082)252-6241 FAX(082)252-6240

外来診療 受付時間 午前8時30分～午前11時00分

※午後の診療は診療科によって異なります。受付でおたずねください。

休診日 土曜・日曜・祝祭日・年末年始 (12/29～1/3)

お願い：駐車場は午前中大変混み合います。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

もみじ

Vol.20



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
TEL(082)254-1818(代) FAX(082)253-8274
ホームページ <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>

(財)日本医療機能評価機構認定病院 認定第JC175号一般病院



理念 県民の皆様にあわれ信頼される病院をめざします

基本方針

1. 患者様の権利を尊重し、真心のこもった医療を実践します。
2. 医療事故ゼロを目標として、患者様の安全対策に努めます。
3. 県の基幹病院として、21世紀の高度・先進医療を推進します。
4. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実向上に貢献します。
5. 健全な病院運営に努め、良質な医療サービスを提供します。

「地域がん診療連携拠点病院」の役割

我が国では、年間60万人の人ががんを発病し、年間30万人の人はがんにより亡くなっています。今や日本人の2人に1人はがんに罹るともいわれ、広島県においても、昭和54年から死亡原因第1位の病気はがんとなっています。

我が国のがん対策は、「がん対策基本法」及び同法の規定に基づく「がん対策推進基本計画」により、総合的かつ計画的に推進されています。

その中で、全国どこでも質の高いがん医療が受けられるよう、がん医療の均てん化を戦略目標とする「第3次対がん10か年総合戦略」等に基づき、がん診療連携拠点病院の整備が進められているところです。

このがん診療連携拠点病院は、専門的ながん医療の提供等を行うとともに、がん診療の連携協力体制の整備を推進し、がん患者に対する相談支援及び情報提供を行うための医療機関です。

当院は、平成18年8月に地域がん診療連携拠点病院に指定されましたが、その後も診療機能や情報収集・提供機能を充実させたことから、平成22年4月に拠点病院指定の更新を受けました。

現在、当院においては「手術療法」、「放射線療法」、抗がん剤治療を行う「化学療法」のがん治療3分野の機能強化に努めています。

特に、「放射線療法」については、平成19年9月から高線量率腔内照射装置(RALS)を導入し治療を開始するとともに、平成22年4月からは放射線科の再編を行い、放射線診断科及び放射線治療科を設置し、機能を強化したところです。

また、「化学療法」については、近年多くの抗がん剤が開発され、進行がんや再発がんの治療成績が飛躍的に向上する一方、副作用の少ない抗がん剤の開発も進んでいるところから、当院ではがん化学療法の外来治療にも対応できるように、より専門性の高い化学療法を行う臨床腫瘍科を平成18年7月に開設しています。

また、乳がんについては、平成21年6月から乳腺精密検査外来を開設、本年6月からは、女性患者さんが安心して受診できるよう女性医師等による検査体制を確保しました。超音波検査やマンモグラフィ読影の認定を受けた医師及び技師により、精度の高い診断を行うとともに、県内でも数少ない内視鏡補助下手術を行っています。

緩和ケアについては、既に県内でも先進的な取り組みをしているところですが、引き続きより質の高い緩和ケアの提供を目指したいと思います。

さらに、がん患者さんや御家族の療養相談や情報提供の場として、地域連携科の中にがん相談室を設置し、研修を受けた専任の看護師が対応に当たるとともに、患者さん同士の交流や学習の場として「がんサロン」の定期開催を行ったり、セカンドオピニオン外来を全診療科で実施するなどの取り組みを行っていますが、これからも患者・家族の立場に立った支援をしていきたいと思っています。

今後は、がん患者さんの退院後の治療について、地域の医療機関等と共有された計画に基づき適切に情報交換を行いながら医療を行うための「がん治療連携計画(地域連携クリニカルパス)」の運用を推進するとともに、がん医療従事者の質の向上を図るための研修会の充実にも努め、早期発見から緩和ケアまで一貫した医療が提供できる拠点病院として、質が高く真心のこもった医療の提供に努めて参りたいと思います。



副院長 福島 典之

● 新任副院長の紹介 ●

4月1日付で、今川副院長の後を受けて内科系副院長を拝命しました。これまでどおりの循環器内科に加え、総合診療科の主任部長を併任するとともに、内科系各科、緩和ケア科、地域連携科などの責任者になりました。同時に、医療安全管理部、臨床研修部などの委員長を命ぜられました。救急医療、医療経済、医療事故、教育研修など仕事は山積みです。桑原院長を補佐し、当院の医療が少しでも向上するよう微力ながら尽くす所存です。



副院長
岡本 光師

4月1日付で副院長を拝命いたしました。とは申しませんが、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の診療、手術はほぼ今まで同様に行う予定です。これまでは耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診される方についてのことを考えていましたが、今後は副院長という立場を通して病院を受診されるすべての方々のお役に立てればと思っております。

「この病院に来てよかった!」との思いを一人でも多くの皆様に感じていただけるよう努める所存です。



副院長
福島 典之

● 新任医師(部長)の紹介 ●

4月1日より総合診療科で勤務しております。平成10年に自治医科大学を卒業し、研修病院のほか広島県と鳥取県の山間部の病院で地域医療に従事してまいりました。地域医療の経験も活かして今後も一層精進して参りますので御指導御鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



総合診療科部長
岡本 健志

平成7年に大分医科大学を卒業後、広島大学病院、松江赤十字病院、広島赤十字・原爆病院、東広島医療センターに勤務しておりました。広島大学第一内科臓器研究室に所属し、膵・胆道系疾患を専門としております。よろしくお願いたします。



消化器内科部長
栗田 幸央

平成9年に広島大学を卒業し、消化器内科医として従事していました。このたび、4年ぶりに生まれ育った市内に戻ってきました。専門とする胆道・膵臓部門は、この4月から新たに2人体制となりました。共に新任ですが、栗田先生と協力し、患者様の診療にあたりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



消化器内科部長
小道 大輔

この4月より消化器・乳腺・移植外科に赴任いたしました。平成7年からは広島大学病院で下部消化管外科、主には大腸がんの治療を中心に学んできました。大腸がん治療は日々進歩しつつありますが、これらをしっかり学んで患者さんに役立てていきたいと考えております。よろしくお願いたします。



内視鏡外科部長
池田 聡

4月1日より消化器・乳腺・移植外科に赴任しました。平成7年から平成9年までの3年間県病院で働いていましたが、以前とはかなり変わっています。また、新たな気持ちで診療に励んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



移植外科部長
大石 幸一

約15年勤務した広島大学病院から心臓血管・呼吸器外科に赴任して参りました。専門は心臓血管外科です。微力ながら誠心誠意努力していきたいと思っております。ご指導賜りますようよろしくお願いいたします。



心臓血管・呼吸器外科部長
岡田 健志

4月1日より放射線診断科に着任しました。私は、針とカテーテルを使った低侵襲治療を得意としており、中でもCTガイド下に行う手技を専門としています。平成3年に岡山大学卒業後、各地を転々として参りましたが、出来るだけ長く当院で勤務したいと考えています。よろしくお願いいたします。



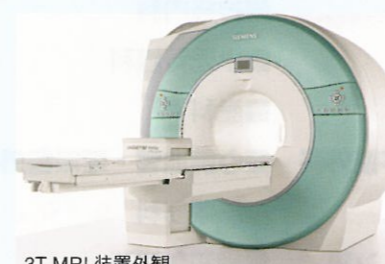
放射線診断科部長
黒瀬 太一

昭和63年に広島大学を卒業後、国立呉病院、広島大学医学部附属病院、国立大田病院、広島市立安佐市民病院、国立大竹病院、呉医療センターに勤務しておりました。産科にも婦人科にも力を注ぎたいと思っております。よろしくお願いいたします。



婦人科部長
熊谷 正俊

● 3T (テスラ) MRIを導入しました ● 放射線診断科主任部長 門前 芳夫



3T MRI 装置外観

MRIとは磁気共鳴断層画像(Magnetic Resonance Imaging)の略で、その原理は、強い磁石の中で電波を与えることにより体の中の水素原子が共鳴し、電波を止めると水素原子から微弱な電波が出るというもので、MRI装置は、この微弱な電波を使って画像を作る装置です。

今回、当院に導入したのは最新鋭の3T MRI装置 (MAGNETOM Verio: シーメンス社製) で、従来の1.5T MRI装置に比べ、約2倍の信号が得られるため、画質が向上し撮影時間も短縮できます。

この装置はガントリーの内径が広く、患者さんへの圧迫感が緩和されます。また、複数のコイルを自由に組み合わせるため広範囲の撮影が可能であり、検査中の騒音も従来に比べ小さくなっています。

この装置が最も有用で得意な部位は頭部(脳外科領域)であり、脳血管の状態を造影剤や放射線を使わずに安全に検査できます。画像も、より細かい血管が描出できますので、小さな脳動脈瘤や梗塞巣が、より鮮明、明瞭に描出できます(図1)。腫瘍や臓器の生化学成分を解析するMRスペクトロスコピーの性能も高く、脳腫瘍の鑑別や放射線治療の効果判定に役立ちます。

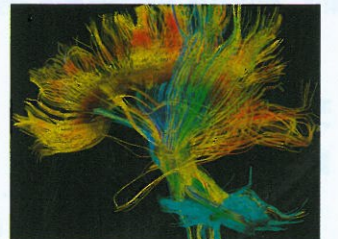
また、脳内の神経線維の経路を画像化する神経トラクトグラフィ(神経線維画像)が施行できるため、脳腫瘍と重要な神経線維との距離が観察可能になり、手術に際しての適応や手術の範囲(切除部分)の決定に有効で、脳腫瘍手術のナビゲーションや放射線治療計画にも役立ちます(図2)。

このほか、脳活動の画像化に優れており、言語野などの高次脳機能を客観的に測定できます。

整形外科領域では、従来の装置では描出が困難であった関節軟骨部の変性が検出でき、脊椎の検査では、脊椎全体の評価が診断可能です。このように3T MRI装置は、脳神経外科、整形外科領域で特に優れた能力を発揮します。



▲脳内動脈(図1)



▲神経線維(図2)

● 患者さま満足度アンケート調査の報告 ●

当院では毎年1回 入院及び外来患者さまに満足度調査を実施しています。多数の患者さまに御協力いただき、誠にありがとうございます。平成21年度の結果を抜粋して報告いたします。

当院及び職員に対しては、いずれも高い評価をいただきました。特に、入院患者さまから医師及び看護師の対応に関して高い評価をいただいております。反面、院内施設、特に長時間にわたる待ち時間、駐車場等についてさまざまな意見をいただきました。

これらの意見を参考に、創意工夫して、患者さまはもとより、職員の満足度向上に向けても、さらに努力して参ります。なお、日常でもお気づきの点は、院内常設のご意見箱へアドバイスをお寄せください。

